

4月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

中国の思想家孟子には人生の三つの楽しみがあったという。有名な「孟子の三楽」である。①父母兄弟が健在であること②天に恥じるような行ないはしないこと③天下の秀才を教育すること。孟子さんには孟子訳ないが、私にも「三楽」がある。①汗をかいた後のビール②読書の後のコーヒー③努力の後の勝利。そこに今月は新たな楽しみが一つ追加になった。幼稚園に通うようになった孫娘のスクールバスへの送り迎えだ。幼稚園の制服に身を包み、おもちゃのような鞆を背負いながら、バスに乗り降りする孫娘の姿を毎日見る。厳寒の冬を乗り越えた色鮮やかな草花たちと穏やかな日々を過ごせた4月だった。

1・読書から

◆「理論を引き出すことこの意味は、新しい見方を取り入れることによって、これまで見えていなかった事象を見えるようにするということである」(『バスケットボール学入門』流通経済大学出版社)

最近バスケットボール学会ができたという。今後バスケットボールのあらゆる分野で色々なエビデンスが発表されるだろう。理論は実践に意味を与えてくれる。理論なき実践は危うい。実践なき理論はむなし。今後益々勉強しなければならないだろう。

2・新聞のコラム等から

◆「あなたが笑うとあなたの大切な人が笑うよ」(朝日・折々のことば・西原理恵子)

爺婆は孫の人生において決定的な役割、影響を持つ。コーチはコートにおいて選手に影響を与える。コーチが笑顔でコーチングできれば大切な選手たちは笑顔でいつも以上にがんばってくれる。選手の生活を楽しくするか、暗くするかはコーチの気分しだい。

◆「人生経験も、豊富な知識も、なにひとつ勝ち目のないお客様にあなたが唯一勝てるのは、ひたむきな努力です」(朝日・大和証券「伝説の営業職員」藤井政子)

ひたむきに努力することは何事においても基本中の基本。価値あるものはすべてひたむきな努力によって生まれる。偉大な仕事を成しえた人は皆努力家である。安易な方法で近道を探すようになったら要注意。

◆「恥ずかしさは自分のためにある。恥ずかしさが自分を育てる」(朝日・加藤登紀子『ひらり一言』より)

チャレンジし失敗をして恥をかくことから成功への道がスタートする。恥をかくことを、汗をかくことと同じレベルで考えるようになってから人生は変わったような気がする。

◆「稽古とは一より習い十を知り、十よりかえるもとのその一」(千利休・元プロ野球監督、広岡達朗の座右の銘)

今年もシュートクリニックにリピーターがたくさん参加してくれた。十を知っても、もとの一に戻って繰り返し繰り返し、やらないと進歩しないことを知っている子どもたちだ。

◆「死支度(しにじたく)致せ致せと桜かな」(小林一茶・朝日『日曜に想う』)

毎年鶴ヶ城の桜をウォーキングしながら堪能する。「あと何回見れるだろう」を想うと、残り少ない人生を実感させられる。むなしさに負けじと今春もガンジーの詩を口ずさむ。

「明日死ぬかのように今日を生きよ。永遠に生きるかのように学び続けよ」